

令和2年度高知県市町村図書館等振興協議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和2年9月16日（水）10：00～12：00
- 2 会 場 オーテピア高知図書館 4階 集会室
- 3 議 事 ・市町村の図書館等の現状と計画の進捗状況について
・図書館振興に向けた「目指すべき姿」について
- 4 参加者 別紙のとおり
- 5 協議会議事録（要旨）

①開会挨拶 生涯学習課長 三觜 美香

②市町村の図書館等の現状と計画の進捗状況について

- ・事務局説明1 生涯学習課長補佐 清川 真史

○市町村図書館の現在位置：資料1

（平成27年度と平成30年度の比較：延床面積、蔵書冊数、開架冊数、資料費、人口一人年間貸出点数、専任職員数）

○各市町村の状況：資料2

（令和元年度からの追記・修正箇所は赤字で表示）

○高知県内の図書館等整備状況：資料3

（コロナウイルス感染拡大の影響でやや遅れが見える）

- ・事務局説明2 生涯学習課長 三觜 美香

○これまでの取組状況について：資料4

（市町村訪問において聞き取り、県の振興策・支援について説明。令和2年度については、コロナウイルス感染拡大の影響で市町村訪問が遅れている。）

○計画の進捗状況について：資料5

（成果目標、参考指標の説明。中学生の読書をしない（月～金）割合増が気になる）

③これまでの説明についての質問

清原委員 資料2について、芸西の図書館で小中学校図書館とのネットワーク構築等検討中とあるが、どういうネットワークを何を使って行うつもりか？
佐川町と四万十町でアカデミックリソースガイドに委託とあるが、これはどのようなものか？

尾形 芸西村は、小中1校ずつであるが、現在は図書館システムを導入していない。このコロナ関係の補助金を活用して、学校に図書館システムを導入して蔵書の検索ができるようにする。公立図書館と連携してどこからでも検索できるようにしていく。

山重 アカデミックリソースガイドというのは、コンサルタント会社である。元ヤフーの社員である岡本氏が立ち上げた会社。様々な調査を行う際に

図書館を利用しており、その中で知的資源を総合的に検索できないかと考えた。最初は Web サイトを立ち上げたが、事業を進める中、図書館から相談されるようになり、現在はコンサルタントが中心になっている。図書館の雑誌も出している。

清原委員 アカデミックリソースガイドへの委託は、県の施策ではなく市町村が自発的に行っているのか？

山重 そのとおり。

加藤委員長 資料1を持って市町村を回ったとして、市町村に競争意識は芽生えているのか？もう自分たちは降りるといふ市町村はないのか？

三觜課長 今年度、昨年度の訪問から考えると、市町村の首長が熱心なところは、教育委員会や職員の方にも理想や熱意を感じた。しかし既定路線で図書館を作るということは、やや心配な自治体もあった。各市町村教育長をはじめ教育委員会全体は図書館は大事、子どもに本を読んでもらいたいという思いは強い。何とかしたいのだがというところでもがいていると感じた。

尾形 新しい図書館の整備も進んでいると報道等でも紹介される機会も増えたので、進めている市町村は他の自治体の様子も気になっている。参考にしていると思う。今、図書館がない自治体は、厳しい印象を受ける。

加藤委員長 義務教育の児童生徒に一台のタブレット等を持たせるように動いているが、そのときに市町村の図書館が何かできるか、児童生徒対象のタブレット教室を開催するなど、考える必要はないか？いつタブレット等が必携になるのか分からないが、生涯学習課として前もってある程度の見通しを持ち図書館が担う新しい役割を考えておく必要があるのではないか？

清原委員 子どもの学校において、タブレット等の必携は進められていると聞いている。芸西の質問もその意味合いもあった。何か手立てを考えているのか？ネットワークを作るが、検索のみということだった。一人が一台タブレット等を持つということを活かして、図書館から何か情報を流すなどして、本に触れる機会や本のようなものを提供するなど、何か今から考えていなければ、遅れるのではないか？

山崎館長 県内の市町村からオーテピアに小中学生が見学に来ている。今度来る郡部の中学生は、電子書籍の使い方、データベースの使い方などを学びにくる。これまでになかった図書館見学のプログラムになっている。教育センターに次世代型教育推進担当企画監というポストも生まれた、教育センターと図書館の間で何かできないかと考えている。新たなサービスとして、来館者に対して、市町村に対して、学校に対して提供すること

を考えていく。

④図書館振興に向けた「目指す姿」について

・事務局説明：生涯学習課長 三觜 美香

○市町村図書館等への振興策について（案）：資料6

（全市町村に向けた支援、個別の市町村に向けた支援、委員からの意見を反映した振興策）

⑤振興策についての質問

清原委員 市町村の総合戦略にいくつか関わった。新たな整備計画が進んでいる図書館への支援について、「市町村の総合戦略と連動した構想・計画策定への働きかけ」とあるが、具体的にどんなことが想定されているのか？それが分かると総合戦略の中に位置づけることができるのだが。

三觜課長 具体的な事業ということではなく、市町村訪問の際に総合戦略の中身を聞かせていただいている。図書館の建て替えや設置を予定しているのであれば、総合戦略に入れているかを確認している。入ってなければ入れるように促している。

岡林委員 丁寧な資料を作っていただきありがたい。学校現場では安芸市や室戸市が図書に関していろいろな思いをしている。遠隔地にも平等に図書館教育が届くように進めたい。

今後の展開で、「地域による図書館サービスの利用促進」の深みのある成果の体験とは具体的にはどのようなものか？

図書館は、家庭教育・学校教育を行っていくうえでも大切と考えている。学校現場でこういうことをしてもらいたいということがあれば教えてもらいたい。

三觜課長 課題解決を図書館でできたという体験をしてもらいたい。本を借りるだけの場ではない。ビジネス支援等では多くの情報を図書館は持っている、悩みがあるのなら図書館で解決、対応できるレファレンスサービスが図書館にはある。他県では実際に新しい商品開発につながった事例もある。家庭教育の支援について、PTAを中心とした保護者の学び、親子での学びも支援の対象になる。親子の図書活動に焦点を当てやっていきたい。そのためには市町村の教育委員会や図書館の協力が必要である。

山崎館長 オーテピアで行った課題解決の例として、県内にも新型コロナ感染防止対策製品を作っている民間企業がいくつかある。県の産業振興センターと連携して様々な取組に参画しており、相談があった製品について司書がレファレンスをしたり、実際、製品をモニタリングして改良の支援を

している。その結果、商品化につながり、オーテピアで展示をした。それを見た企業が取り扱った事例がある。

このことから、図書を借りるだけでなく、開発の場としても利用できることを市町村にも知ってもらいたい。

岡林委員 読書量が0の高校生が多いと聞いた。高校生の時から自分が親になったらという意識を持たせるためにも、高校生が保・幼稚園に読み聞かせに行くなどという活動があっても良いのではないか。親になってから本が大事ということを知るのではなく、高校生の時から本が大事ということが分かるように学校としても動きたい。

吉富委員 2点ある。
知のインフラとしての図書館が成功している事例を教えてください。
オーテピアでの製品支援など、できるところは良いが、できないところはアカデミックリソースガイドなどへ委託をするという構造なのか？

山重 知のインフラとしての図書館の成功事例は、県内では難しい。他県では鳥取県立図書館が有名である。資料費が1億ある。グッドデザイン賞を受賞した方が、図書館に相談したところ資料が多く提供され、その結果製品化し受賞につながった。

県立長野図書館は3Dプリンターを使い、2次元を3次元にするなどしている。

アカデミックリソースガイドについて、活用している自治体は、図書館のことが分からなくなって相談するというわけではない。ここに相談するところはもっとよくしたい、いろんな発想を求めてというところが相談している。

県立図書館との関係が悪いわけではない。官も民も使ってよくしていけば良いと考える。

田島委員 「こどもの図書館」もアカデミックリソースガイドの岡本さんに来ていただき、アドバイスをもらっている。総務省のアドバイザー事業を使い、年3回無償で来てもらっている。

子どもたちの図書館・読書環境に差があることが気になる。良い環境で小中学校時代を過ごした子どもは、それが普通となる。新学期になれば新しい読書カードがもらえ、読書の意欲が生まれる。逆もあり得る。どういう普通を大人が子どもに提供できるかが大切。私たちに何ができるかと考えたとき、市町村に向けた支援として、親子に対しての支援を本もセットにして全県内を回ればと考えるが、これにもお金がかかる。難しい。

フィンランドでの子どもに本を必ず読ませるという事業を見て、その熱

意を感じた。そういう成功例を見せることも必要だと思う。

学習の意欲はあるが、学校に通えない生徒は外へ出て情報を得ることができない、家にいて情報を得ることができれば可能性が広がる。図書館にできることは多いと思う。

三觜課長 先進事例や素晴らしい取組をしている事例を市町村訪問の際には提示できるようにしていく。

加藤委員長 一般論だが県は、非営利活動法人に対してどういう関係か？
予算等でも計画実績があれば、支出できるのか？

山重 一般論であるが、生涯学習整備振興法と文字活字文化振興法をうまく使い、民間と協力して進めていくことを施策に組み込めば、可能だと思う。

三觜課長 生涯学習課と「こどもの図書館」の関係で言えば、図書館の場所について県が無償で提供している。現在は公文書館に移ってもらっている。生涯学習課としては、「こどもの図書館」のノウハウを使い、読み聞かせの講座を委託し、県内3地区で展開してもらっている。

加藤委員長 ざくばらんについて、活動に対して何らかの予算措置は可能か？

三觜課長 それは補助金ということか？

加藤委員長 公金を使うとそのような形になるであろう。

三觜課長 「こどもの図書館」の立ち上げ時に、運営はNPOが行う、県は補助金を出さない代わりに場所を提供するという形で始まっている。

田島委員 生涯学習課からは事業を受託して、県内3か所で全9講座を行えている。このような講座を無償で開けるのは、委託をしてもらっているからである。

加藤委員長 お互い刺激し合い、良好な関係で進んでいけば良い。場所の無償提供はありがたいと思う。

田中委員 知のインフラについて、本は、あれば良いが、なくてはならないものにまだなっていないのではないか。首長によって考え方は異なる、産業振興や人口増に結びつけば、食いつきが良いと思うが。多面的な活用を提案していけば、もっと予算的な面でも支援がされるのではないか。オーテピアの事業を見ても多くのことをしていると感心した。タブレット等の必携も令和5年までに順次という計画であったが、コロナで一気にと
いう流れに変わった。この件についても、学校現場でもどう活用するかという課題がある。教員のハードルを下げることが必要。効率を良くする工夫が大切。

北川村でも新しい施設ができたので、そこにも本を置いてもらっている。新しい施設の建設が増えると思うが、学校図書館も地域で活用できるコミュニティにしていくなど必要である。それらの案もアカデミックリソ

ースガイドなどの力を借りて、新しい形を作れたら良い。

加藤委員長 知のインフラとは、基盤になるものだと考える。しっかりと揺るぎないものであるべき。基本的な情報システムの扱い方や情報とはこういうものだというを押さえておく。この部分の合意や理解があやふやになるとふらつくのではないか。知のインフラの実質的な内容を関係者にご理解いただくことが大切。

久寿委員 多様な角度から図書館支援、取組をされているが、協議会の本質としては、市町村の図書館教育を活性化させる事で、高知県全体の図書館教育が高まるというところであると思う。市町村によって取組は様々であるので、一気にここまであげるとするのは難しい。知のインフラとは何かということを各市町村の図書館担当は理解をしているのか、そこが重要。教育長の会等で説明をいただいているが、担当者が知のインフラについて理解していないと目指すところにはたどり着かないと思う。目指すべき姿が細かなところまで明示されると、予算や施設面で市町村に地域差があっても、一定地域を巻き込んだ図書館の取組ができるのではないか。多くの取組の基本は、全市町村と連携しながら進むことである。そのためにこれまで以上に県には尽力してほしい。

次の社会を踏まえた策を考えていくことが必要。

三觜課長 ご提案感謝する。どのような働きかけが市町村の取組を向上させるのかを戦略的に考えていくことも必要だと思う。ただ地道に積み上げていくことも必要だと思う。教育長会や総務担当者会などを逃さないように知のインフラについて説明していく。新型コロナの状況が続くことも踏まえ、今までどおり図書館に集うことができないことも考え、新しいサービスを市町村に提案していく。

吉富委員 資料6の知のインフラとして「目指すべき姿」の①～③がどういう状況なのか、10年くらいの単位で確認していくことが必要。

地域がどうしたいのか、どういう支援が行えるのか、行ったのかを軸として、あわせて管理するべき。

図書館同士で勉強会をする案が前回出ており、遠い地域の課題があったが、コロナ禍の中ではテレビ会議が一般化されたので活かしてほしい。知のインフラとして、どうするべきがなどの意見交換ができる。各地域でのモチベーションの確認もできる。

三觜課長 Webでの意見交換や勉強会については取り組んでいきたい。

各市町村ごとにどういった支援ができるかについても一定整理していく。

田島委員 資料3の図書館の整備状況について、私は南国市在住であるが、南国市を見たときにプロポーザルを行っているが、他の市町村のように事前に

説明会や懇談会、ワークショップがないというのはどういうことか？分かるのなら教えてほしい。

三觜課長 資料3については新聞等書かれている事を記載している。南国市にも訪問しているが、まだ公には出ていないこともあるかもしれない。南国市民であれば、個別に教育委員会に聞いていただければと思う。

加藤委員長 県や高知市はテレビ会議は率先して行うが、他の町村はどうか？田中委員、北川村ではテレビ会議の広がりはどうか？

田中委員 先日、県の教育長の説明会は Web で行った。

加藤委員長 そういったところから確認していくことが必要。インフラという考え方を合意形成することが必要かもしれない。県や高知市等はできるが、その他の市町村はできない、という状況はないか？オンライン会議もその1つである。

年齢構成も踏まえ、高齢者が多くなるとIT関係は難しく感じ、取り入れられにくい現状があるかもしれない。

これまでたててきた振興策についてもコロナウイルスの影響は出てくる。コロナの感染対策は今後も必要になると考える、この点について見通しがあればここで伝えてほしい。

三觜課長 現状、見通しが立たないのが正直なところである。小中学校のタブレット等必携については、子どもに関わる事として新たに対策を考えていく必要がある。紙ベースで行くのか電子図書でいくのかなど。実際そこまで予算化はできていない。人的サービスのみにはなる。ここ1～2年でこの件を進める。

加藤委員長 知のインフラを考えたとき、危機対応も踏まえたもので考えた方が良いのではと思う。図書館は情報を扱うので、危機対応についても情報を発信、受入れ、説明ができる、ネットワークが構成できるようにしていく方向を持てばうまくいくのではないか。

吉富委員 知のインフラや理想について、できれば絵になったり、漫画になったりできないか？図書館がこうなるといいというものを首長・関係者だけではなく住民、子どもたちにも見てもらえればよいのではないか。1つ見えるものにしておくのもよいのではないか。

加藤委員長 良い提案である。低年齢層に様々な施策を知ってもらうことは重要。漫画文化活用し、広報活動の一環として、視覚的に訴える戦略も必要。

⑥閉会挨拶 生涯学習課長 三觜 美香